

【休眠預金等活用事業 2023 年度通常枠】

生きづらさを感じる孤独・孤立社会の生活支援事業

事業名	10代の若者が自己肯定感と多様な生き方を学校と地域で育むプログラム
団体名	一般社団法人 Eureka coco
所在地	千葉県我孫子市高野山263-6
事業の概要	<p>1 自己表出プログラム:本来の自分を表出し、他者に受容される体験プログラムの開発・実装</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者である10代とともに開発する。 ・10代が安心して「自己表出」をできるよう、デザインやエンターテインメント性を確保する。教育や福祉などの専門家だけでなく、デザインやエンタメの専門家を巻き込んだ開発をする。 ・「自己表出プログラム」を学校で実装していく為に、教育行政との連携をとる。 <p>2 多様な生き方に触れる人生体験プログラムの開発・実装</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の価値観である「画一主義」「同調主義」だけではない、多様な価値観を大切にしたい生き方の大人とのダイアログプログラムの開発。 ・学校、地域の両方で定期的に開催する。 ・参加する大人の選出は本団体が行う。これまでの活動で子どもたちとの関わりの経験があること、多様な価値観を受け入れて生きていること、多様な世代、価値観の人との関わりが大事であると認識していること、継続的に本プロジェクトに関わる意思があることなどを基準に選出する。 <p>3 地域の中に10代の若者と地域が出会う場の開設・運営</p> <p>上記プログラムのワークショップ会場の機能だけでなく、学生が宿題をしたり、対話をしたりして過ごす機能を持つ場を地域の中に創設し運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外で遊びたい時は「ごちゃにわ」を活用。異年齢集団の中で育ち合う経験を通して、自己肯定感、自己有用感を獲得していく。 ・相談機能としても保育士や相談援助の専門職であるメンバーが相談に乗り、我孫子市教育相談センターなどとも連携して支援体制を構築する。
事業期間	2024年9月～2027年2月28日
助成予定額	14,385,000円 (直接事業費:13,640,000円/管理的経費:60,000円/評価関連経費:685,000円)
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、近隣他市(松戸・柏など)と比べてユースワークに対する行政の支援が少ない我孫子において、民間団体がファーストペンギンとして取り組まれることには一定の先駆性と価値があると評価したい。過去の緊急枠の実施を通して他団体との連携の仕方も慣れてきていると思うので、本団体が採択されることで他の採択団体へのポジティブな影響も見込めるのではないかと。 ・幼少期→児童期の子どもたちの社会教育的事業を地域で展開してきた同団体がそのままユースの年代の子どもたちの支援に乗り出すことで、世代単位の点々とした支援から線・面での支援体制が展開していける可能性があると感じる。今までの事業で学んできたことや培ってきた人脈をフルに使って展開されるであろうと期待している。 ・事業に対する熱量、現場の子どもたちをしっかりと見る視点、他の団体と連携していく意思に関しても明確で頼もしい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。

【休眠預金等活用事業 2023 年度通常枠】

生きづらさを感じる孤独・孤立社会の生活支援事業

事業名	地域で子どもの幸福度を救え！支援するされるの垣根を越えた総合体験提供事業 ～食・学び・社会貢献体験～
団体名	南流山子ども食堂の会
所在地	千葉県流山市南流山4-4-28
事業の概要	<p><事情あり、なし、全ての属性の子供達の自主性・存在価値を育む事業> (自主性・自己存在価値、幸福度の向上)</p> <p>①「子供は支援されるもの」という立場に加え、自らが積極的に社会と関わるチャンスを提供する／子ども食堂、地域交流食堂、学習支援などの運営②その他、クリーン活動や高齢者との触れ合いなど、子供が主体となって社会の人々へ貢献出来る活動。</p> <p><ハイリスク児童・家庭をサポートする事業> (居場所・学習意欲向上・貧困対策・送迎サービス)</p> <p>①学習支援／平日週2回、不登校児向けの学習プログラムを実施②学校にも当団体にも出て行く事が難しい子供の家庭訪問、会場への送迎③ハイリスク児童への食事・食料支援、学習サポート、寄り添い、学校や行政との連携等④その親との対面、公式ライン等での無料相談</p> <p><事情あり、なし、全ての属性の子供達の、文化への興味関心・意欲を育む事業> (文化への関心向上・体験格差解消)</p> <p>①子供理科教室／学校の勉強とは違った身近な理科の楽しさを学ぶ②社会科見学や博物館見学、コンサート等のイベント開催③他団体と連携し、団体のイベントにも子供達と一緒に参加する</p> <p><教育機関への提言>①コミュニケーションスクールの評議員として学校方針への提案、更に行政への政策提言をする②各小中学校・教育委員会管轄下での講座等への出前授業の実施、子供ボランティアの参加者を募る</p> <p><PR・普及事業>①メディア出演や講演会、セミナー等の発信を軸に、活動を日本全土に広めていき、共感者や寄付者を増加させる②他共感団体への活動サポート</p> <p><ステークホルダー構築>事情あり層への普及として3市の児童養護施設、自立援助ホーム、教育機関、行政機関などに積極的に当団体を紹介し、連携を図る。また、事情あり、なし両者に対して同じ志のNPOなどと連携し、自主開催以外のイベント、社会活動、体験活動などに積極的に子ども達が参加出来る様に連携を図る</p>
事業期間	2024年9月～2027年2月28日
助成予定額	17,850,880円 (直接事業費：15,332,780円／管理的経費：1,668,100円／評価関連経費：850,000円)
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな機会を提供する事業である。活動に対する熱い思いは評価できるし、仲間をしっかりと巻き込んでいる進め方も好感が持てる。この事業が展開されたら、この事業に参加した受益者にとっては手厚い支援が行われる3年間になるのだろうと感じる。 ・7年に渡る活動実績がある点が多いに評価できる。また事業報告などをホームページにきちんとアップしている点も評価点。7年前のメンバーが現在まで一緒に活動しているのも安心要素である。事情ありの子どもたち、事情なしの子どもたち、みんなに参加してもらおう活動である点に期待したい。 ・万全のサポートをしてくれる家族のほか、流山にとどまらず応援してくれるスタッフがいることは強味。法人化する準備が出来ているので、法人としてしっかり運営体制を整えることができれば問題ないと感じる。 ・すべての子どもの幸福感を高めるというミッションに向けて、しっかり波及効果を持った事業を展開していくロジックを伴走でブラッシュアップしていきたい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。

【休眠預金等活用事業 2023 年度通常枠】

生きづらさを感じる孤独・孤立社会の生活支援事業

事業名	子どもたちの社会的な居場所づくり事業
団体名	一般社団法人アイルゴー
所在地	千葉県鎌ケ谷市南初富5-3-20-9
事業の概要	<p>地域に住む、家庭や学校に居場所がなく、自分に自信を持ってない子どもたちや保護者を主な対象としつつ、参加を希望する子どもたちや保護者は拒まずに受け入れながら、以下の事業を行う。</p> <p>①子どもの「生きる力」を育むプログラム 対面で、全10回の集合型プログラムを実施する事業。子どもたちの「学びの向かう力」「知識や技能」「思考力、判断力、表現力」などを育み、子どもが自分の持ち味を発見でき、自分を認められるようになることを目指す。プログラムは、ワークショップ形式での進行を中心とし、自己理解、対話スキル、マネーマネジメント等を学ぶ。地元事業者との協働によるビジネス体験なども取り入れる予定。さまざまな参加者が参加できるよう、単発でも参加できる回も実施する。</p> <p>②地域の子育て支援ネットワークづくり 鎌ケ谷市内の子育て支援に取り組む、市民団体、教育機関、行政、事業者等など多様な関係者をつなぐ事業。子どもを持つ親が、支援が必要になった時にすぐに支援につなげられる状態を目指す。ネットワークでは、相互の活動理解や学びにつながる交流&勉強の機会を定期的に開催したり、将来的には地域の方々の参加できる公開イベントの企画も予定。</p>
事業期間	2024年9月～2027年2月28日
助成予定額	11,806,200円 (直接事業費:9,790,700円/管理的経費:1,709,500円/評価関連経費:306,000円)
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに合わせて居場所を作っていくというミッション。事業の取り組みとしては先駆性が高いものではないが、鎌ケ谷にこの事業・支援体制が敷かれることの価値はあると思う。事業を通して仲間集めを進めてもらいたい。是非多くの企業などを巻き込みながら培ってきた今までのつながりを今回の事業で存分に活かしてほしい。 これまでの実績があり、周りの支援者が多い様子が伝わってきた。周りの人に助けたい、手伝いたいと思わせる魅力があるように思う。拠点がないので、こども食堂との連携など、これからどうやって居場所を作っていけるのかが課題。 事業自体はブラッシュアップの余地があるが、社会課題は捉えられていると感じるし、実行力も今までの実績から評価できる。 課題に対する思いもしっかり持っているし、何より多くの関係者を今までつなぎ合わせて実績を作ってきている点が大きく評価できる。受けた事業はしっかり最後まで完遂してくれると感じている。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。

【休眠預金等活用事業 2023 年度通常枠】

生きづらさを感じる孤独・孤立社会の生活支援事業

事業名	認知症世界の歩き方倶楽部： 認知症高齢者の孤立予防と幸せな生活実現のコミュニティ構築
団体名	特定非営利活動法人イシュープラスデザイン
所在地	東京都文京区千駄木 2-40-12
事業の概要	<p>本事業で取り組む課題は「認知・身体機能低下からはじまる高齢者の社会的孤立」である。 (活動地域:主に我孫子市)</p> <p>課題1：85歳以上の約半数は認知症を発症する見込みで、大半の方が90歳以上を生きる人生100年時代、「誰もが認知症とともに生きる時代」に突入する。</p> <p>課題2：東京への一極集中・ベッドタウン化、核家族化・単独世帯化により家族・親族との関係も希薄化。退職を機に会社との人間関係も薄れ、社会的に孤立状態に陥る高齢者が増加。</p> <p>課題3：社会的孤立は、過度な飲酒、運動不足、肥満よりも、各種疾患の発症・悪化リスクを高める。社会的孤立に伴う脳卒中や心臓病の発症リスクは約1.3倍、認知症の発症リスクは約1.5倍に。</p> <p>本助成を受け、認知・身体機能が低下する認知症当事者の社会的孤立解決のための、認知症をテーマにした学びと出会いの拠点づくり「認知症世界の歩き方倶楽部」のプログラム開発・運営を行う。</p> <p>特徴1：映像やワークショップを通じて、本人中心に多様な方がみんなで認知症を学ぶ認知症当事者を中心に、予備軍、ご家族、専門職、地域住民が、みんなで一緒になって、認知症ご本人目線で認知症について、アニメ映像やゲーム型ワークショップを通じ対話をしながら学ぶ</p> <p>特徴2：認知症ご本人の幸せな暮らしをテクノロジーやコミュニティの力で実現する認知症のある方が継続的に社会参加できるよう、ご本人には趣味や仕事など幸せな暮らしを考え、仲間やAI・ITの力を活用して実現する方法を考える機会を、ご家族や専門職には幸せな暮らしを支援する生活環境デザインや対話方法を習得する機会を提供する</p> <p>特徴3：認知症への理解が変わる、認知症フレンドリーな地域へと変わる</p> <p>歩き方倶楽部を通じて、地域みんなの認知症への理解が変わり、認知症ご本人と周囲の人が繋がり直すことで、社会的に孤立する認知症ご本人を地域みんなで支える地域へと変えていく。</p>
事業期間	2024年9月～2027年2月28日
助成予定額	13,965,000円 (直接事業費：13,000,000円／管理的経費：300,000円／評価関連経費：665,000円)
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症とともに生きる時代に必要不可欠になるであろう事業。とても練られた設計だし、認知症を前向きに、明るくとらえている点に期待が持てる。誰もが関わるかもしれない問題なので、波及効果も期待できそう。あとは今まで草の根の事業を行ってきた経験が浅いため、地元のステークホルダーとの関係性構築を行いながら事業を進められるかがキーになりそう。 ・ベースが全国レベルで展開されているコンテンツであるため、これをローカライズして初めて東葛エリアで展開されるという点に期待したい。社会の課題に市民の創造力をという団体のビジョンが素晴らしいと感じる。是非事業をしっかりと形にして東葛エリアに広がるようにしてもらいたい。さらに東葛以外にも上手くPRしていただければ、モデルケース的な展開が期待できると思う。 ・どこまで東葛エリアでの草の根的な活動に実際のところ熱量をもってコミットされるのかが未知数のところもあり、また既存団体との関係性作りが上手くいくかがキーになると思うので、しっかり伴走支援でカバーしていきたい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。

【休眠預金等活用事業 2023 年度通常枠】

生きづらさを感じる孤独・孤立社会の生活支援事業

事業名	KIDS スペース付きの cafe を頼りあいと多世代交流の拠点へ
団体名	ママとこ café
所在地	茨城県北相馬郡利根町 2 1 1 5 - 1 0 5
事業の概要	<p>① 子育て中のママは、普段の食事は子供が優先となり、自分の食事をゆっくり楽しむことができない。また、周りに頼れる人がいない、子育ての相談をできる相手がいないなど、不安や孤独感を感じている方が多い。そのようなママたちに、小さな子ども連れでも安心してゆっくりと食事を楽しんでいただくことをコンセプトに「ママとこ café」を運営しています。店内では、食事をするだけでなく、同じような悩みを持つお客様同士のコミュニティが自然と生まれており、交流の中で孤独感や不安の軽減に繋がっています。</p> <p>② 利根町は少子高齢化の進展とともに若い世代の流出や自然減による人口減少が大きな課題となっており、平成 29 年 4 月には過疎地域の指定を受けています。ママとこ café がある周辺地域においても高齢化率は 50%を超えており、独居で暮らす高齢者も多くいます。近辺には、大型スーパーはあるものの徒歩で行くには距離があり、飲食店も少ないため、免許を持たない高齢者にとっては日常の買い物や食事をする場所がないことが大きな負担となっています。ママとこ café では、こうしたシニアの方たちにも食事や料理を提供できたらと思い、子育て世代だけでなくシニアの方たちにも店内で食事を楽しんでいただくほか、お弁当やお惣菜のテイクアウトを始めたところ、普段接する機会のない子どもや若いママたちと交流ができると大変喜ばれています。最近では、毎週末ママとこ café でランチするのを楽しみに通ってくださる高齢者夫婦もいるなど、徐々にではありますが、地域の高齢者の方たちの来店も増えており、ママとこ café = 多世代交流の拠点としての可能性を感じています。</p>
事業期間	2024 年 9 月～2027 年 2 月 28 日
助成予定額	18,664,800 円 (直接事業費：15,276,800 円／管理的経費：2,688,000 円／評価関連経費：700,000 円)
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県であるが我孫子市とは利根川をはさんだ対岸であり、利用者に東葛エリアの住民もいる。事業所を訪ね、事業に対する強い思いが伝わってきた。利根町の活性化を考えたときに、子育て支援だけでは乗り切れない面があるが、提案された事業はシニア世代を巻き込むものなので、その点は大きく評価ができる。 ・事業計画全体を見ると、未熟な点も見受けられるが、ターゲットにしている受益者にしっかりフォーカスしていることと、今までつながりを作ってきた地元のシニアをうまく巻き込めれば面白い価値が生み出せるかと期待できる。 ・きちんと課題についても捉えられており、想いもある一方、それを言葉にして客観的に説得させる力を、この事業の伴走支援でつけてもらいたい。多くの人を巻き込み、応援団をつくれる可能性・伸びしろを感じる。 ・利根町の支援も受けられるだろうし、町ぐるみで取り組める事業になりそうで、粘り強く作って行けば、モデルケースの一つにはなり得ると思う。同様の課題を抱える他自治体へビジネスの手法により解決する仕組みが波及することを期待する。 ・一緒にカフェを運営しているスタッフがどれだけ便利になるのかが鍵になる。安定した体制づくりが進められるかが課題。継続していくためにも休眠預金活用事業でまずは体制を整え、ステージアップしていける伴走支援をしたい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。

【休眠預金等活用事業 2023 年度通常枠】

生きづらさを感じる孤独・孤立社会の生活支援事業

事業名	TOKATSUコミュニティリンク ーだれでも・どこでも・どんなときも・つながる場づくりー
団体名	特定非営利活動法人テラス 2 1
所在地	千葉県柏市増尾台 2 丁目 8 番 7 号泉ハイツ 2 0 2 号
事業の概要	<p>社会制度からこぼれた人や社会から孤立した人（当事者）を真ん中に置いた支援と協働の新たな仕組みづくりを目的に、当事者と社会をつなげる人づくり（コミュニティリンクワーカーの養成）を行いながら、養成したコミュニティリンクワーカーによる、当事者の社会参加と社会的自立を支援する。また当事者やコミュニティリンクワーカーが活躍できる場づくりと新たな協働づくり（プラットフォーム）を東葛エリアで進めていく。さらにその活動を持続可能にするための収益づくりも進めていく。</p> <p>①協働づくり：東葛エリアでの当事者の支援に関わる多様な主体（行政機関・中間支援団体・支援活動団体・企業等）との新たな協働づくりを目的に、啓発講座や意見交換会・交流会などを行ないながら、当事者を真ん中においたゆるやかなプラットフォームをつくっていく。</p> <p>②人づくり：当事者に寄り添いながら、その人の興味・関心・特技から社会（コミュニティ）につなげていく人材（コミュニティリンクワーカー）の養成を東葛エリア全体で行っていく、行政区を超えた支援体制（施設・経費・人材等の共有等）を整えていく。</p> <p>③場づくり：地域に拠点を設け、その地域に住んでいる当事者が、地域でのコミュニティ（町会・自治会・商店会・地域活動団体等）とつながる仕掛けづくり（コミュニティリンクワーカーの実践を含む）を行いながら、当事者が主体的に地域に参画していく支援を行う。</p> <p>《拠点》あ・えーるテラス（当事者の社会参加と就労支援）・光ヶ丘（地域交流の場と子どもや若者が主体となった活動拠点）・東葛エリアでの拠点</p> <p>*上記の活動を持続可能にするための資金を拠点運営（販売・参加費等）での収益、情報誌の広告収入、代行販売（福祉事業所の製品の開発と販路の拡大による製品の販売支援）での手数料、いずれはプラットフォームでの包括システムによる会費制での収益などの収益づくりを行っていく。</p>
事業期間	2024 年 9 月～2027 年 2 月 28 日
助成予定額	17,100,000 円 (直接事業費：14,540,000 円／管理的経費：1,960,000 円／評価関連経費：600,000 円)
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に「あ・えーるテラス」を見学すると、たくさんの利用者で賑わっており、こういう場所が必要であるという実感を持つ。事業テーマは非常に重要で、あとはしっかりと事業を進めていく際に他のステークホルダーとネットワークを構築していけるかが肝になる。 ・担当者は東葛エリアでの人脈が多く、多くのつながりのある方なので、そこがうまく機能し、事業が回れば成果は大きくなると期待できる。この事業が実現出来たら、東葛エリアの福祉ネットワークが敷ける事業となり、大きな価値があると思う。 ・東葛地域の社会的弱者支援をするプラットフォームづくりに期待が持てるが、事業内容は多方面にわたるので、ゴールを明確にし、優先順位をつけ、軌道修正しながらの伴走支援をしていきたい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。